

9月19日 マタイによる福音書19章 13～30節 今日の説教から  
説教題：「簡単で難しい、新しい掟」

私たちは、どのような時に幸福を実感するでしょうか。おいしいものを食べる時や、素晴らしい本に出会えたとき、感動的な映画をかみしめている時や、それらを家族や友人と共有している時間に、私たちは幸福を実感することでしょう。最近はオリンピックやパラリンピックが開催されていましたが、金メダルを貰った時の選手たちの喜びは、何よりも代えがたいものだったと思います。そう考えると、私たちは何かをしている最中というよりも、何かをし終えた時に、特にそれが最良の結果となったときに、幸福を感じるのかもしれません。

フランス人学者アランという人物によって記された『幸福論』という本の中で、日常の様々な物事に対する「幸福とは何か」「こういった人物は幸福か」という視点で物事を観察した時の様々な発見について記されています。この本の最後の文章には、「私たち人間は何もしないでいることによって容易に不幸になることができる」「気分によって行動することで私たちは悲しみや怒りに支配されてしまう」、しかし「私たちは意志と自己支配によって幸福になることができる」「自分の行動を自分で支配して、常に幸福になるために行動することそのものが、私たちを幸福へと導く」という内容の言葉が記されています。

彼自身はクリスチャンではないためその言葉がそのまま私たちの信仰と合致するわけではありませんが、私たちは「気分や欲望に支配されず、自分の行動を自分で支配して幸福を目指す」という点において、「自分の意思で神様の支配を受け入れる」という方法で彼の幸福論を受け止めることができます。今日の聖書箇所で示されている「金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」というイエス様の言葉は、私たちが積極的に愛を示すことの難しさを教えています。満ち足りている人ほど持っているものを手放すことは難しく、時に大きな恐怖と戦う必要があります。今持っているものを手放した時、自分が今まで通りの信仰を保つことができるのか、そんな恐怖が私たちを襲います。しかし、イエス様が弟子たちに語るように、私たちは信仰に対する報いが約束されています。イエス様の名のために今私たちが失っていくすべてのものが、100倍の価値となって帰ってくる、それほどまでに永遠の命という報いは大きなものです。私たちはイエス様を信じることによって、イエス様の十字架が私たち一人一人の罪を贖うものであることを受け止めることによって、すでに救いが約束されているのです。

神様が延ばしてくれている手を、私たちは自分の意思でつかみに行くことができます。神様が私たちに注いでくれている愛を受け止めて、その愛を誰かに返す力を、私たちは神様から与えられています。「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」、「隣人を自分のように愛しなさい」と私たちに示された掟は、その信仰と愛の行いによって私たちが希望に向けて歩むことができると教えてくれています。私たちが神の国に招かれているという希望は、幸福が約束されているという希望として私たちを力づけてくれているのです。

「怒りと絶望は、第一に克服しなければならない敵である。希望をもたねばならない。そして微笑まねばならない。そうしながら、仕事をしなければならない。」そう語るアランの言葉のように、私たちは希望に押し出されて、笑顔によって強められて、「愛」という仕事に励むことが神様に期待されています。その喜びを胸に、今週一週間の、これから歩みを共に進めましょう。

## 今日の説教箇所：マタイによる福音書19章 13～30節

- 13:そのとき、イエスに手を置いて祈っていただくために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。しかし、イエスは言われた。「子供たちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない。天の国はこのような者たちのものである。」そして、子供たちに手を置いてから、そこを立ち去られた。
- 16:さて、一人の男がイエスに近寄って来て言った。「先生、永遠の命を得るには、どんな善いことをすればよいのでしょうか。」イエスは言われた。「なぜ、善いことについて、わたしに尋ねるのか。善い方はおひとりである。もし命を得たいのなら、捷を守りなさい。」男が「どの捷ですか」と尋ねると、イエスは言われた。「『殺すな、姦淫するな、盜むな、偽証するな、父母を敬え、また、隣人を自分のように愛しなさい。』」そこで、この青年は言った。「そういうことはみな守ってきました。まだ何か欠けているでしょうか。」イエスは言われた。「もし完全になりたいのなら、行って持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」青年はこの言葉を聞き、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。
- 23:イエスは弟子たちに言われた。「はっきり言っておく。金持ちが天の国に入るには難しい。重ねて言うが、金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」弟子たちはこれを聞いて非常に驚き、「それでは、だれが救われるのだろうか」と言った。イエスは彼らを見つめて、「それは人間にできることではないが、神は何でもできる」と言われた。
- 27:すると、ペトロがイエスに言った。「このとおり、わたしたちは何もかも捨ててあなたに従って参りました。では、わたしたちは何をいただけるのでしょうか。」イエスは一同に言われた。「はっきり言っておく。新しい世界になり、人の子が栄光の座に座るとき、あなたがたも、わたしに従って来たのだから、十二の座に座ってイスラエルの十二部族を治めることになる。わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子供、畑を捨てた者は皆、その百倍もの報いを受け、永遠の命を受け継ぐ。しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる。」